

# 死亡事故が連続発生

## 安全登山にむけた緊急アピール

2018年8月31日

日本勤労者山岳連盟 理事長 浦添嘉徳  
遭難対策部長 臼井邦徳

労山内の死亡事故は、今年に入って7月までゼロのまま推移してきました。しかし残念なことに、8月に入って下記のように、3件4人死亡の事故がたて続けに発生しました。

- ①8月12日（日）14:00 新潟県苗場山南面／赤倉山・サゴイ沢  
事故者が8m滝をトップで登攀中、トラバース途中でバランスを崩して滑落により死亡。男性（64歳）。遺体に目立った外傷は見られなかったとのこと。
- ②8月13日（月）12:25 北ア／劔岳・早月尾根  
悪天のため登頂を断念し、下山中に先頭を歩いていた事故者がつまずき、滑落。頸椎骨折により死亡。男性（78歳）
- ③8月26日（日）午後 奥秩父／飛龍山・大常木（おおつねぎ）沢  
沢登りをしていた男性から「男女2人が沢で流されて沈んだのを見た」と警察に通報があり、捜索したところ、遺体（男性57歳、女性48歳二人は夫婦）が発見された。現場の沢は、それまでの大雨によって増水していた。

この4名は、いずれも労山東京都連盟に所属する会員でした。

3件の事故原因は、はっきりとはわかりませんが、①は6/30～7/1の全国遭難対策担当者会議で指摘されていた山での突発的身体症状（突然死）も排除できず、②は事故者がかなり高齢で、背景としてのバランス能力低下が考えられます。③は、悪天候による増水が想定されます。

全国連盟は、4人が所属していた東京都連盟に対して、事故対策のいっそうの強化・徹底を呼びかけるとともに、来週は台風が日本列島を直撃することが予想されるなど、天候不順にも十分に気を付け、安全登山を推進するよう、緊急に呼びかけるものです。